

探究・校務改革  
支援補助金  
2025

令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

# 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社With The World

【サービス名称】

もっとおもしろく!もっと手軽な!国際交流授業「セカコラ」

【サービスの支援項目】

カテゴリー1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## 1. サービスの概要、特徴

### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- 国内の小・中学校・高校から大学までと海外の学校を**同年代同士オンライン**でつなぎ、**社会課題について議論するアクティブラーニング授業**を実施可能。
- **世界67カ国546校の連携校**を持ち、日本校と授業を実施、日本校の探究テーマや授業の回数、頻度、進行スケジュール等、日本校の要望に応えることが可能。
- 国際交流授業中に生じる言語障害は弊社スタッフがシステム上でサポートを行い、児童・生徒の言語レベル・成長度に合わせて進行業務を調整が可能。
- 同世代と一緒に身近な社会課題を考え、最後は児童・生徒が取りまとめた実装モデルを**世界数10カ国以上の中高校生が募る世界大会**で発表し、その後にある海外生徒との意見交換やフィードバック等を通して**多角的な視点で思考を深め、課題解決力を磨くプログラム**が実施可能。

### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- 国際交流授業設計から当日の運営までを弊社で担うことができるため、国際交流事業モデルを提示することができる。
- ワークシートの提供をすることで国際交流に係る準備の効率化ができる。
- ICT機器の接続確認を込めたマインドセットプログラムにより、機器の環境を考慮したプログラム実施ができる。

### (3) サービスの活用場面

- 外国語、総合的な探究(学習)の時間、情報科、技術・家庭科、専門高校等において、「情報Ⅰ、Ⅱ」の代替等として実施される科目 等

### (4) 1サービスあたりの標準販売価格

- 20,000円(税抜)

※サービス導入の際に、学校様側で必要なご用意  
タブレット(PC)・通信環境

※ご利用料金に通信費は含まれておりません。

## 2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

### 専属運営スタッフが 司会進行

担当のスタッフが構築  
から授業運営まで担当

### グループ アシスタントスタッフ

グループに担当メン  
ターが付くので安心

### 海外校との スケジュール調整

煩雑なやり取りや調整業  
務はお任せください

### カリキュラムデザイン ワークシート構築

学校のご要望に沿って授  
業案を構成

### 連絡プラットフォーム プロジェクト管理

海外校と連絡をするた  
めのオンラインプラット  
フォームの使用

### 授業評価 レポートの作成(PPT納品)

最後の評価レポートは  
PPTで納品

## ■ 学校等教育機関の課題と解決策

探究活動においては、学校や自治体ごとに独自で探究活動を設定し準備から運営までを行うため、現場の教員への負担も多く、特に同活動で期待される「校内外での調査活動」等においては、調査に時間や労力を費やさなければならないことも問題となっている。これらの問題点に対して、弊社のノウハウや、コネクションを活かすことで、解決を促す。

### 児童生徒・教職員が抱える課題

児童生徒は、探究型国際交流の授業を受ける機会が少なく、「総合的な探究の時間」で醸成される力が向上する実感できることが少ない。また、海外の人とのコミュニケーションに抵抗感を感じる児童生徒も多く、自国を見つめなおすことや、他国と比較する機会が少なくなっている。教職員では、学校独自で探究活動を設定し、準備から運営までを行う必要があるが、経験やノウハウが足りず、実施に負担感を感じる人が多い。また、海外と繋がるためのコネクションも少なく、国際交流を実施することには敷居の高さを感じている。

### サービスが果たす役割

探究型国際交流授業を通して児童・生徒は、世界を身近に感じ、学習指導要領が示す「総合的な探究の時間」で育む3つの能力の向上が期待できる。

#### ①知識及び技能：

他国の同世代が直面する社会課題の現状を知り、その課題への取り組みを学ぶことで解決に必要な情報を収集・整理・分析することができる。

#### ②思考力、判断力、表現力：

他国と自国の社会課題と比較し物事を多角的に捉えることができる。また他国との比較を通して自分の考えを発信することができる。

#### ③学びに向かう力、人間性等：

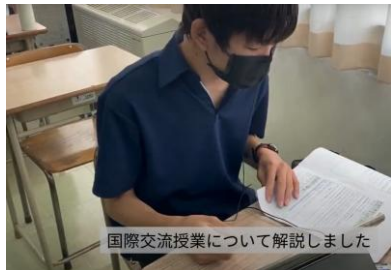
世界の同世代が直面する課題を知ることで、課題を身近に感じ、自分事化することで探究に対する意欲を育む。また共に解決に取り組む協働性を養う。

## サービスの活用風景・授業の流れ

### 課題設定

#### 探究に海外の視点をいれよう!

国際交流へのマインドセットプログラムです。探究の発表事例をもとに探究に海外の視点を入れる際の、考え方や物事の捉え方について学びます。



国際交流授業について解説しました



発表原稿・QuickHelpは、手元に置いておきましょう

### 情報収集

#### 海外のリアルを知ろう!

オンラインの国際交流プログラムです。海外の方より、身近な社会問題をグループ発表いただくとともに、日本の現状と照らし合わせながらインタビューをします。



### まとめ・表現

#### 世界67カ国から有志が参加!

世界中の中高大学生が、平和を願い、SDGsの達成に向けてアクションを起こすWith The World 主催のプレゼンテーション大会です。年間の取り組みを発表できます。



#### SOLUTION

- 01 By adapting nursing homes and training more middle-aged people to become doctors, using technology devices from homes.
- 02 Train more doctors who specialize in caring for older adults or improve services for elderly care, like nursing homes and home care can help with the aging problem.
- 03 To reduce healthcare costs, we should use volunteers, avoid unnecessary treatments, leverage technology, focus on prevention, manage finances better, and involve patients in their care.

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	25	学校等教育機関数	30 校
--------	----	----------	------

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	学校法人 長崎南山学園	長崎南山高等学校	長崎県	高等学校	2年生	教科:英語
2	学校法人 智辯学園	智辯学園中学校	奈良県	中学校	3年生	教科:英語
3	学校法人酪農学園	とわの森三愛高等学校	北海道	高等学校	1年生、2年生	教科:英語
4	学校法人簡野学園	羽田国際高等学校	東京都	高等学校	全学年	教科:英語
5	学校法人常翔学園	常翔学園高等学校	大阪府	高等学校	2年生	教科:英語
6	香川県教育委員会	香川県立三木高等学校	香川県	高等学校	1年生	教科:英語
7	香川県教育委員会	香川県立琴平高等学校	香川県	高等学校	1年生、2年生	教科:英語
8	学校法人津曲学園	鹿児島修学館中学校	鹿児島県	中学校	1年生、2年生	教科:英語
9	静岡県教育委員会	静岡県立沼津商業高等学校	静岡県	高等学校	1年生、3年生	教科:英語
10	静岡県教育委員会	静岡県立静岡城北高等学校	静岡県	高等学校	全学年	教科:英語
11	学校法人追手門学院	追手門学院中高等学校	大阪府	高等学校	2年生	教科:英語
12	神戸市教育委員会	神戸市立飛松中学校	兵庫県	中学校	1年生	教科:英語
13	和歌山県教育委員会	和歌山県立向陽高等学校	和歌山県	高等学校	3年生	教科:英語
14	和歌山県教育委員会	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県	高等学校	2年生	教科:英語
15	和歌山県教育委員会	和歌山県立笠田高等学校	和歌山県	高等学校	1年生	教科:英語
16	栃木県教育委員会	栃木県立宇都宮東高等学校	栃木県	高等学校	1年生	教科:英語
17	滋賀県教育委員会	滋賀県立河瀬高等学校	滋賀県	高等学校	1年生、2年生	教科:英語

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	25	学校等教育機関数	30 校
--------	----	----------	------

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
18	大阪府教育委員会	大阪府立四條畷高等学校	大阪府	高等学校	1年生	教科:英語
19	広島県教育委員会	広島県立西城紫水高等学校	広島県	高等学校	全学年	教科:英語
20	姫路市教育委員会	姫路市立琴丘高等学校	兵庫県	高等学校	1年生、2年生	教科:英語
21	学校法人筑紫女学園	筑紫女学園中学校	福岡県	中学校	1年生	教科:英語
22	学校法人清光学園	高岡龍谷高等学校	富山県	高等学校	全学年	教科:英語
23	南あわじ市教育委員会	南あわじ市立沼島中学校	兵庫県	中学校	全学年	教科:英語
24	山形市教育委員会	山形市立明治小学校	山形県	中学校	2年生、3年生	教科:英語
25	山形市教育委員会	山形市立村木沢小学校	山形県	小学校	4年生、5年生	教科:英語
26	高石市教育委員会	高石市立取石小学校	大阪府	小学校	5年生	教科:英語
27	兵庫県教育委員会	兵庫県立浜坂高等学校	兵庫県	高等学校	1年生、2年生	教科:英語
28	明石市教育委員会	明石市立明石商業高等学校	兵庫県	高等学校	2年生、3年生	教科:英語
29	東京都教育委員会	東京都立三宅高等学校	東京都	高等学校	全学年	教科:英語
30	東京都教育委員会	東京都立八王子桑志高等学校	東京都	高等学校	全学年	教科:英語

# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 定量的効果検証

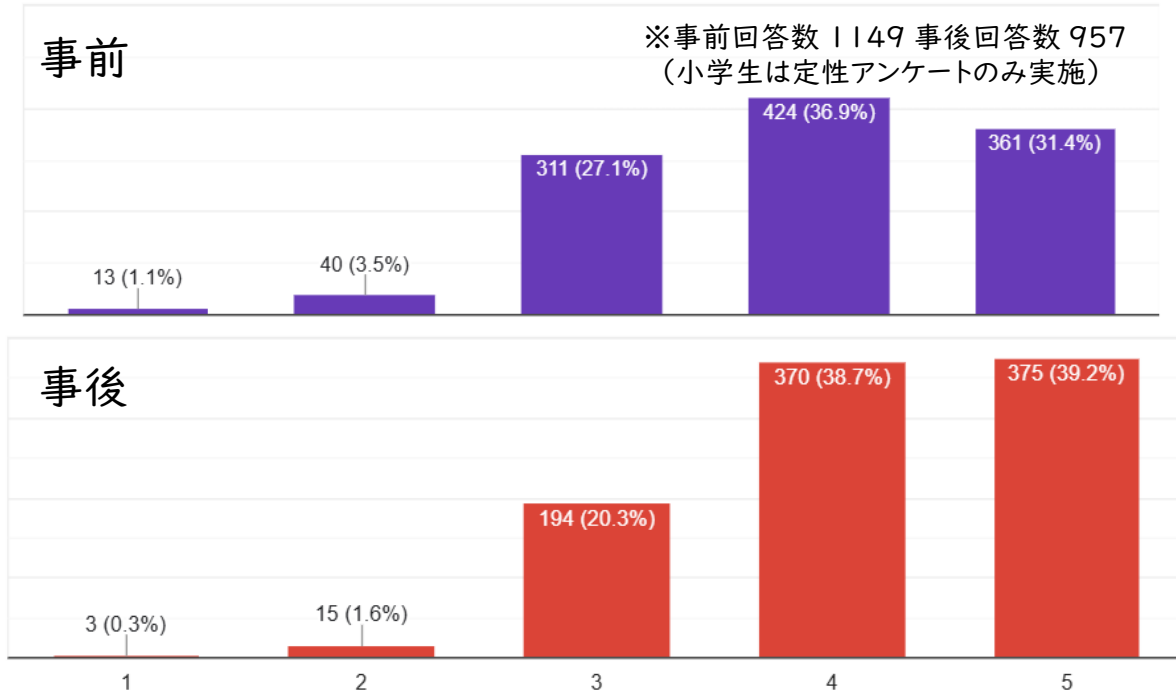
### <生徒の定量的学習効果>

#### 【測定指標と評価方法】

本分析では、「異文化理解力」を生徒が5段階（1:低い～5:高い）で自己評価を行い数値変化を測定した。質問項目は事前・事後共に「自身の異文化理解力について自己評価をしてください。」とした。

#### 【分析結果】

異文化理解力の自己評価平均値は、実施前の**3.92**から、実施後には**4.14**へと、**0.22ポイント上昇**した。「異文化＝自分たちとは違うもの」という認識から、「違いの中に共通点を見つける」という視点の転換が起きたことが、理解力を高める大きな要因となりました。



### <教職員の定量的効果>

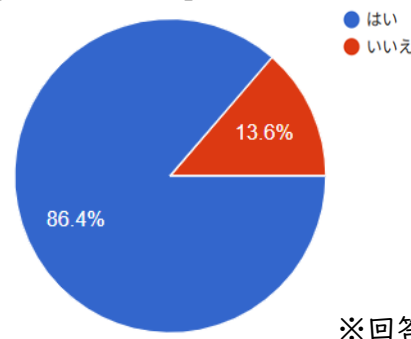
#### 【測定指標と評価方法】

本分析では、プログラム実施後の生徒の変化を測定するため、担当教員に対し「今回のプログラムを経て参加者の『国際交流への考え方』『英語/探究学習への取り組み方』などに変化はあったか」を問い、その回答傾向を集計した。また、プログラム導入に伴う現場の業務負担を測定するため、「今回のプログラムを実施するにあたり、ご負担はどの程度ありましたか」を問い、回答分布を算出した。

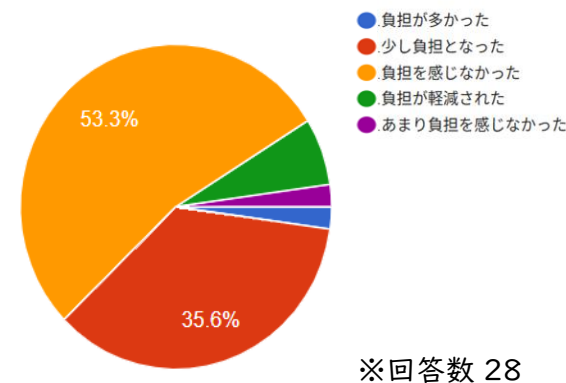
#### 【分析結果】

回答が得られた教員の86.4%が、生徒に肯定的な変化が見られたと評価した。「外国＝遠い国」という認識から、「自分たちと同じ人間がいる身近な存在」へと認識の転換が起きた。「負担を感じなかった」または「あまり感じなかった」とする回答が全体の約57%を占めた一方、「少し負担となった」とする回答も約43%確認された。行事が多い2学期の実施で予定を組むことが難しさになったとコメントがあった。

「今回のプログラムを経て参加者の『国際交流への考え方』『英語/探究学習への取り組み方』などに変化はあったか」



「今回のプログラムを実施するにあたり、ご負担はどの程度ありましたか」



# 【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

## 定性的効果検証

### <生徒の定性的学習効果>

#### 【分析の視点】

自由記述回答(コメント)を対象に、テキストマイニング的な視点で頻出語句や文脈を分析した。特に「心理的な障壁の変化(不安から自信へ)」と「異文化理解の具体性(知識の深化)」の2点に着目して評価を行う。

#### 【心理的变化:言語的呪縛からの解放】

事前アンケートのコメントでは、「不安」「心配」「苦手」「聞き取れるか」といったネガティブな感情語が記述の多くを占めていた。多くの生徒が「正しい文法で話さなければならぬ」「沈黙が怖い」というプレッシャーを感じており、英語力をコミュニケーションの絶対条件と捉えていたことがわかる。

しかし、事後アンケートではこの心理状態が激変している。「ジェスチャーで伝わった」「笑顔で乗り切れた」「文法が完璧でなくても通じた」という記述が多数見られ、「非言語コミュニケーションの有効性」への気づきが得られている。「英語が話せない=何もできない」という事前の思い込み(メンタルブロック)が払拭され、「伝えようとする意志があれば通じ合える」という自己効力感へと変化した。記述には「楽しかった」「もっと話したい」というポジティブな感情語が溢れ、英語学習へのモチベーションが「義務感」から「欲求(もっと知りたい、話したい)」へと質的に転換したことが分析される。

#### 【能力的変化と異文化理解の深化】

事後コメントの内容は具体的かつ詳細であり、表面的な知識の習得を超えた深い理解(Deep Understanding)に達していることが確認された。「ニュースで見るイメージと違った」「発展途上国というイメージが変わった」といった記述からは、メディア情報によるバイアスが修正され、等身大の相手(同世代の高校生)としてのリアルな姿を認識できたことがわかる。

### <教職員の定性的学習効果>

#### 【分析の視点】

自由記述回答(コメント)を対象に、テキストマイニング的な視点で頻出語句や文脈を分析した。特に「視点の変化」「外部人材との連携による安心感」「教育観・指導法への気づき」3点に着目して評価を行う。

#### 【「指導者」から「共感者」への視点の変化】

通常授業とは異なる生徒の生き生きとした姿や、異文化交流の熱量に触れ、「わたし自身すごく楽しかったです」と回答する教員が見られました。生徒と共に感動を共有することで、国際交流の教育的意義を再確認し、教員自身のモチベーション向上にもつながっている。

#### 【外部人材との連携による安心感の醸成】

当初はICT機器の接続や進行に不安を感じていた教員も、ファシリテーターやコーディネーターのサポートが入ることで、「安心して交流活動を楽しめた」「助かった」という心理的な負担軽減(安心感)を得ています。これにより、管理業務ではなく、生徒の観察や指導に集中できる環境が生まれた。

#### 【教育観・指導法への新たな気づき】

スタッフとのやり取りやプログラム内容を通じて、「教育や社会について気づきを得られた」とする記述があり、外部の視点を取り入れることが教員自身の学びになっています。また、生徒の反応を見ることで、「事前学習でもっとこうすればよかった」「次はこうしたい」という具体的な授業改善への意欲が喚起された。

## ■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

## 児童・生徒の感想 &lt;良かった点&gt;

- 英語が公用語じゃない人同士が英語を通じて思いを伝え合うのが不思議に感じた。
- 自分が知らない社会問題が世界にはたくさんあるのだと気づかされた。
- 日本は子供が少ないことが問題になっているが、バングラデシュでは子供が多いことが原因で一人の先生の見る生徒の数が多くなり教育の質が低下しているということを知りました。
- 言葉が通じない時がありましたが拍手で感情を伝えることができるのだと学びました。
- 自分の未熟な英語力に不安があったけど、プレゼンテーションの単語が聞き取れたり質問が通じて答えてくれたりしたことで、英語で会話ができている感動を感じられた。
- 「私は〇〇だと思うけれど、あなたはどうですか」という自分の意見も相手に伝えられるやり方を実践し、より深い交流にしていきたいと考えています。
- 日本とは違う部分もあると具体例を通して知れた。そこには互いの思想や環境が異なっていることが関係していることが分かった。
- 言語が異なっても考えは変わらないことを学んだ。
- 外国の方と関わる際には経験を活かし、変わった文化も否定せず認めあっていきたいなと思いました。

## &lt;改善点&gt;

- リアルタイムで話してるという体験が貴重だったからインドネシアの教科書や制服をよく見ることができなかった。
- 相手の声が通信環境のせいあまり聞こえなかったので次回に期待したい。
- 質問とか用意して事前準備があるとより良い学びができる。

## 先生の感想 &lt;良かった点&gt;

- 外国の人は全然違うと思っていたけれど、私と好きなものと同じだったり、生活も似ている人もいると知った」と、外国の人だから違うのではなく、人としては同じということを知り、考えが変わった。
- 今まで遠い存在の国だったものが、「身近な国」になっていると感じます。
- 自分の身の回りのことをもっと知って、世界に向けて発信していきたいという動機づけになった。
- 現地でのインタビューを通して、平和や多様性に関する言葉が彼らの中で残っていたり、それに関する自分の意見を言えるようになっていたり変容を感じた。
- 違いに気が付くことで、自分の当たり前が当たり前ではないことを知るきっかけになった。
- 語学研修のみだと「楽しい」だけで終わってしまったかもしれませんが、事前事後研修のおかげで気付きが得られた。
- 英語でコミュニケーションすることを楽しんで出来た。
- 自身の研究を英語で伝えるには何倍も準備と理解が必要であることに気づいた。
- 普段は見れない生徒の表情をたくさん見ることができました。

## &lt;改善点&gt;

- オンライン授業は音声面でスピーカーの音割れもあり、なかなかせつかくの発表を聞き取れなかったところが残念でした。
- 交流できる国がわかれば、相手国についても調べたり、会話を膨らませる準備ができるかもしれません。文化的タブーや互いを比較する情報をもって臨めるともっと充実した時間にできる。

# ■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

本プログラムの課題は、通信環境による対話の断絶、非英語圏特有のアクセントへの聞き取り力です。また、深い探究内容を伝える専門語彙や、探究テーマの背景知識の不足もありました。解決策として、機材の事前点検と視覚資料の強化を図ります。学習面では、多様な英語への理解を深める事前研修を行い、自分の意見を添えた「問いを深める型」の練習を導入します。また、探究テーマについて十分な調べ学習ができる教材の提案をします。これにより、語学の壁を超えて社会課題を深く議論できる、質の高い探究活動を目指します。

## 直面した課題

### <接続のトラブル>

音質の劣化（音割れ）、接続エラー、映像の乱れにより、海外生からのプレゼン内容や質問の聞き取りが困難になり、学びが遮断されてしまった。

### <探究課題への知識差>

日常的な挨拶や趣味の話は盛り上がるものの、自分たちの「探究テーマ」や「社会課題」といった深い内容になると、内容の理解度や伝達度が低下してしまった。

### <参加校の英語レベル差によるサポート体制や内容の工夫>

生徒によっては英語でのコミュニケーションに自信をもてない状況があった。

## 解決するための改善策

### <接続のトラブル>

#### 事前対策:

- ①発表スライドを事前に共有し、音声が入り切れても視覚的に補完できる環境を整える。
- ②海外校との事前接続テストを複数回行う。

#### 非言語の活用:

- ①音声に頼らず、チャット機能やリアクションボタンを積極的に併用する。

### <探究課題への知識差>

#### 準備プログラムの充実:

- ①事前に発表資料を一緒に作ったり、英語表現を含めた探究テーマの基礎知識をしっかりとつけられるサポートプログラムを実施する。

### <参加校の英語レベル差によるサポート体制や内容の工夫>

#### 当日のサポートの充実:

- ①プログラム冒頭でアシスタントと生徒が打ち合わせをし、相手に合わせたサポートができるような設計をする。

## ■会社概要

社名	株式会社With The World
代表	五十嵐駿太
設立年月	2018年4月
本社	兵庫県神戸市中央区浪花町56 起業プラザひょうご内
資本金等	18,000,000円
従業員数	11人
事業内容	<p>「世界の果てまで教育を届け続ける」を理念に、国内の小・中学校・高校から大学までと海外の学校の同年代同士をオンラインでつなぎ、探究型国際交流授業や社会課題について議論するアクティブラーニング授業等、「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業の企画・運営。</p> <p>&lt;オンライン&gt;国際交流プログラム(異文化理解) &lt;オンライン&gt;問題解決型国際交流協働プログラム(SDGs・社会問題) &lt;事前事後研修&gt;海外/国内研修/修学旅行前 探究学習プログラム(探究型修学旅行) &lt;海外/国内実地研修&gt;オンライン×実地研修で探究を深める SDGsフィールドワーク研修</p>

## ■お問い合わせ窓口

担当:五十嵐駿太

電話:078-600-2294

Mail: info@withtheworld.co